

# 船舶事故調査報告書

平成28年3月24日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年11月6日 14時30分ごろ
発生場所	香川県土庄町小豊島南方沖 唐櫃港B防波堤西灯台から真方位157° 3,600m付近 (概位 北緯34° 27.7′ 東経134° 06.7′)
事故の概要	漁船めぐみ丸は、左旋回中、また、プレジャーボート浦上丸は、漂泊中、両船が衝突した。 めぐみ丸は、船首に擦過傷を生じ、また、浦上丸は、船尾に亀裂を生じた。
事故調査の経過	平成27年11月18日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 めぐみ丸、1.01トン OY3-16943（漁船登録番号）、個人所有 B プレジャーボート 浦上丸、0.8トン OY3-23725（漁船登録番号）、個人所有 第271-36414号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 船首に擦過傷 B 船尾に亀裂
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の初期、潮流 西流約1ノット（kn）
事故の経過	船長Aは、A船の船首を南方に向けて漂泊していたが、北東方約15mの所に潮上りをするため、操舵室後方の甲板上で腰を降ろした姿勢で左舷後方を見たところ、他船を見掛けなかったため、潮上りの場所まで他船はいないと思い、約4knの対地速力で左旋回を開始した。 船長Bは、接近する他船が漂泊して釣りを行っているB船を避けてくれるものと思い、B船の船首を西方に向け、左舷中央部で立って流し釣りを行っていた。
分析	A船は、船長Aが、潮上りの場所まで他船がいなかったものと思い、左旋回中に周囲の見張りを行っていなかったことから、至近で漂泊しているB船に気付かなかったものと考えられる。 B船は、船長Bが、接近する他船が漂泊して釣りを行っているB船

	を避けてくれるものと思い、周囲の見張りを行っていなかったことから、A 船に気付かなかったものと考えられる。
原因	本事故は、A 船の船長 A 及び B 船の船長 B が共に周囲の見張りを行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 常時適切な見張りを行うこと。